

デジタルコンテンツと外国語教育

小松 祐子
KOMATSU Sachiko
Université de Tsukuba

山田 仁
YAMADA Hitoshi
Hachette Japon

山川 清太郎 (司会)
YAMAKAWA Seitaro
Université de Pharmacie de Kyoto

趣旨説明

山川 清太郎

YAMAKAWA Seitaro
Université de Pharmacie de Kyoto
bpr5000?saturn.dti.ne.jp

今回の Table Ronde では「デジタルコンテンツと外国語教育」について参加者の皆様と考えました。

近年、教育現場のデジタル化が進んでおり、「情報通信技術」(ICT = Information and Communication Technology) を教育現場に活かす例として、e-learning や遠隔授業、iPad, iPhone といったタブレット端末・スマートフォンを用いた学習が注目されています。

本シンポジウムでは、教育現場に ICT を導入している先生と出版編集者をパネリストにお迎えして、どのように教育現場でデジタルコンテンツを活用することができるかお話いただきました。

筑波大学の小松祐子先生は「デジタルコンテンツを用いたフランス語教育 一豊かな学びを目指して一」をテーマに、デジタル教材の歴史を振り返り、SNS を用いた新たな授業モデルの提案をして下さいました。Hachette Japon の山田仁氏には「電子教材に未来はあるか? 一出版社から見た電子教材一」として、編集者の立場から、デジタルコンテンツの考えについてお話頂きました。各パネリストの報告内容については次ページ以降をご覧ください。

シンポジウムを終え、私たちに残された(与えられた)課題を考えると「試行錯誤」という言葉に辿りつくのではないのでしょうか。お二人のパネリストが指摘されているように、急速な発展を遂げている情報通信技術と外国語教育理論・電子教材化についてどのように「折り合い」をつけていくのかが重要となるでしょう。また、デジタルコンテンツの場合、出版社など一般企業との連携が不可欠となりますが、山田氏は電子教材のモデル化について非常に厳しい見方をされています。この点に関して、我々は既存の概念を超えた新たな連携モデルを構築する必要があるのかもしれない。